

令和4年度  
再エネの最大限の導入の計画づくり支援事業  
審査委員会の意見を踏まえた総評

■第1号事業の1：2050年までの脱炭素社会を見据えて再生可能エネルギーの導入目標を策定する事業

概ね、評価は以下の通り。

- ・全体を通して2050年までの脱炭素社会を見据えた適切な再エネ導入目標となっており、さらに地域が求めている将来ビジョンと再エネ導入目標とのつながりが明確、かつ確実性が高い。
- ・本事業の趣旨に沿って将来のエネルギービジョン及び再エネ導入目標等について具体的、かつ意欲的な計画を考えている申請、また、脱炭素社会構築を目指す積極的な活動を展開している申請が多かった。

■第1号事業の2：円滑な再生可能エネルギー導入のための促進エリア設置等に向けたゾーニング等の合意形成を図る事業

概ね、評価は以下の通り。

- ・ゾーニング公表を前提としており、地域の自然的・経済的・社会的条件についての認識も妥当、適切であり、関係機関等との調整も可能。
- ・脱炭素社会構築を目指す積極的な活動を展開している。

■第1号事業の3：公共施設等への太陽光発電設備等の導入調査支援

概ね、評価は以下の通り。

- ・調査内容が地域の将来ビジョン及び再エネ導入目標とのつながりが明確であり、かつ確実性が高い。
- ・本事業の趣旨に沿って具体的、説得力ある調査内容を考えている。
- ・脱炭素社会構築を目指す積極的な活動を展開している。

■第2号事業：官民連携で行う地域に裨益する再生可能エネルギーに関する事業の実施・運営体制を構築する事業

概ね、評価は以下の通り。

- ・全体を通して地域再エネ事業に係るスキームの検討、事業性検討及び実施運営体制の構築を行う事業となっており、具体的かつ妥当である。また、事業実施体制における各構成員の役割・責任の分担も明確。
- ・一方で、一部申請者の中に、事業目的に沿わない例があった。

#### ■その他

以下のとおりの意見があった。

- ・予算額に対して非常に多くの申請があったため、高い評価の申請も不採択とせざるを得ないことは残念であった。
- ・調査の実施に当たっては、費用対効果に十分留意するとともに、複数年度事業においては、適切な進捗管理を行いつつ実施すること。
- ・なお、本事業を通じて、地域における再エネ導入ビジョンと目標策定の促進を期待したい。

以上